

課題名 (農) いけのうちの次世代に継ぐ経営の確立
 所属名 東部振興局農山漁村振興部
 担当者名 雨川 公洋

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題・目標と設定理由

ア 背景

全国では、米の消費量が毎年 8 万トン減少しており、平成 30 年度からの米政策の見直しにより生産調整が廃止されることから、長期的にみて米価の下落が予想されている。本県は、耕地面積に占める水稻の作付割合が高く水稻への依存度が高いことから、水田への収益性の高い園芸作物の導入が喫緊の課題である。

イ 国東市武蔵町池ノ内集落の状況

池ノ内集落では、「地域の農地は地域で守る」ため平成 18 年に (農) いけのうちを設立し、地域の担い手として農地を集積し、麦・大豆を中心とした土地利用型作物で経営を行ってきた。しかし、狭小で排水不良の農地のため生産性が上がらず、農地の改良が求められていた。

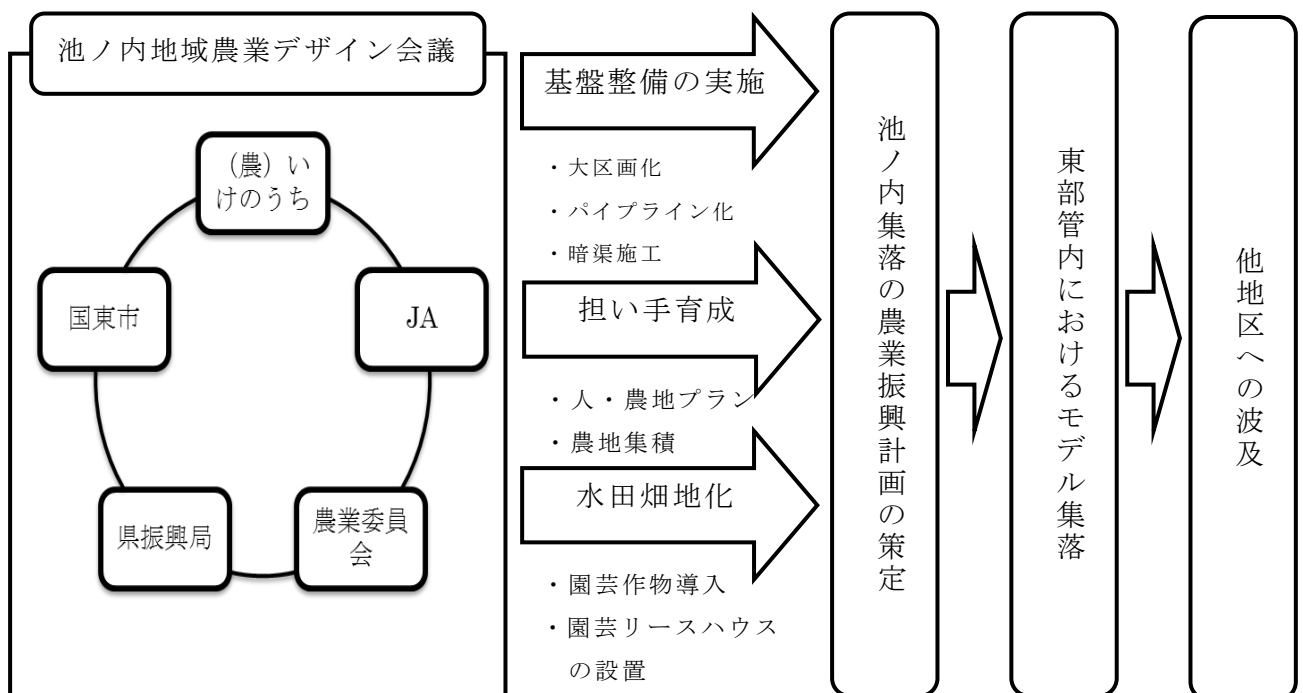
ウ 国東市の担い手育成

国東市では、農家の高齢化に伴う担い手不足に対応するため、積極的な農業への企業参入の推進やこねぎのトレーニングファーム設置等による担い手の育成を行っている。また、こねぎのトレーニングファーム修了生に対しては、(公社)国東市農業公社(以下公社という)がリースハウスを整備し、直ちに就農できる体制となっている。

エ 目標設定

池ノ内集落において、基盤整備事業の実施により後継者へ残す農地を整備することで麦・大豆の生産性の向上を図るとともに、園芸作物を導入し、法人の経営安定を図る。さらに、集落の担い手確保のために圃場整備した農地の一部にこねぎのリース団地を導入する。以上の取組を東部管内における水田畑地化のモデルの 1 つとして位置づけ、他集落へ波及させる。

(2) 池ノ内集落における普及活動のフロー



2 普及活動の内容

(1) 集落のデザイン協議

池ノ内地域の農業農村の発展のため、「池ノ内地域農業デザイン会議（以下デザイン会議という）」を設立し、今後の地域農業のあり方や集落営農の推進方向について協議を行った。協議を進める中で、人・農地プランや基盤整備等についても集落の担い手である（農）いけのうちを中心に関係機関とともに検討を行った。

特に普及では、デザイン会議が円滑に進行するために、関係機関による事前協議や地元との意見調整等を実施し、会議の運営を支援した。

(2) 水田畑地化の推進

ア （農）いけのうちにおける園芸作物の導入

集落の余剰労力を活用し法人の経営安定を図るため、園芸作物の導入を検討した。水田での栽培適合や他作物との作業分散から「さといも」を選定し、豊後大野市への視察研修を実施、法人として「さといも」の導入を決定した。

イ 園芸リースハウスの導入

集落に担い手を確保することと国東市におけるこねぎの産地拡大を目的に、圃場整備後の農地に公社のこねぎリースハウス導入を推進した。デザイン会議における合意形成後、地権者説明会開催し、こねぎトレーニングファーム修了生2名分、約2ha農地にリースハウスを導入することが決定した。

3 普及活動の成果

(1) 基盤整備による生産性の向上

圃場の大区画化（圃場枚数：250→75、1圃場当たりの平均面積：8.7a→28.7a）、用水のパイプライン化及び自動給水栓による水管理の省力化、暗渠施工による排水対策の実施により、生産性の高い次世代に残す農地を整備することができた。

(2) 水田畑地化の推進

（農）いけのうちは、さといもの種芋を20a栽培しており、平成30年度に1haを作付けする計画である。

また、圃場整備が完了する平成31年度に公社のリースハウスを建設し、平成32年度からこねぎのトレーニングファームの修了生2名を受け入れる予定である。

(3) 他地区への波及

振興局が開催した集落営農法人経営研修会（平成29年9月）において、（農）いけのうちが池ノ内集落の取組について事例発表し、振興局農林基盤部が圃場整備事業の内容を説明した。その結果、新たに6地区で圃場整備の要望があがり、今後集落のデザイン会議を開催し、地域の農業振興計画や園芸リースハウスの導入等を推進していく。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 次世代への継承

池ノ内集落では、基盤整備事業の実施により、土地利用型作物の生産性の向上と新たに園芸作物としてさといもを導入することができた。また、次世代の集落の担い手を確保するために、園芸リースハウスを導入することを決定した。今後は、（農）いけのうちの作物の単収向上及びさといもを取り入れた経営の確立を図るとともに、こねぎの新規就農者への支援を行っていく。

(2) 普及活動に向けた提言

水田農業においては、国の農業施策の方向を見据え、地域の全体の農業振興方針を決定していく必要がある。営農面で地域と最も近い立場にいる普及指導員は、様々な関係機関との間を繋ぎ、地域農業全体を進めて行くコーディネート能力を発揮していくことが求められている。